

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172900805), 法人名 (北海道医療株式会社), 事業所名 (グループホームハッピーヴィラしんまち), 所在地 (北海道旭川市6条西1丁目1番2号), 自己評価作成日 (令和2年7月15日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様が自宅に居た時と近い生活、幾つになっても自分らしくいれる場所を基に今迄行ってきた生活習慣や培ってきた知恵や能力を活かされる様、特技や趣味、出来る事を把握しながら、日常の活動として促し、充実した生活が送れるよう、配慮しながら取り組んでおります。他、地域の皆様方との交流を図って行きたく、歌声喫茶的な催しや、仮装盆踊り大会、日常生活に役立つ講習会の開催を行い、ふれあい、住み慣れた地域で何時までも生活が出来、助け合いながら暮らして行ける様、又交流の場としてのホームになる様、取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172900805-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年8月20日)

- 1. 運営の基本事項等; 職員は事業所理念を遵守して、利用者支援に真摯に励み、施設機能の管理・運営に努め、利用者には地域環境(住民活動等)を十分に活かしている。
2. 職員の介護姿勢・態度等; 職員は利用者の動きをよく観て、聴いて、尋ねて、手を差し伸べ、また、定例の生活状況報告で家族との連携を密にして、信頼を高めている。
3. 家族の介護への好感度; 家族は日常のホームからの連絡、来訪時の職員の接遇と介護内容の丁寧な説明等に、高い好感を示している。
4. 運営推進会議開催状況; 会議は定例に開催。地域組織・機関、家族等の参加を得て、利用者の日常活動等の詳細を報告。参加者の意見・意向がよく議事録に記され、家族へも送付して、運営に反映している。
5. 地域組織・機関等連携状況; 会議の参加者をはじめ、地域商店街との連携を図って、多様な催しを共に楽しむなど、地域組織・機関の協力を得ている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳」を基に、何処までを「個人の尊重、尊厳」と、とらえ対応するのか？「良し、悪し」をどのように伝え対応するのか？を念頭に置きながら日々接している。	職員は事業所理念「利用者個々の尊厳や個別性に添い、家庭的な日常生活を支える等」を遵守し、かつ共有して、真摯な支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	催しや運営推進会議等から、交流を図り、知り得た方達と交流が長く保てる様、催し会からお誘いをし、取り組んでいる。	ホームの日常の活動と行事の年間計画の下に、地域組織・機関の協力を得るよう、大筋は運営推進会議に諮って、理解を得ながら、連携ある活動となるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や催し等からグループホームとは？認知症の方に対する接し方や日々の取り組みについて話、互いに助けあいながら暮らして行ける様、取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練や支援の在り方について、説明し、ご意見を伺いながら取り入れ、業務に活かしている。	会議は定例に開催して、民生委員、地域関係者、家族、包括支援センター等の参加を得て、現状報告、行事予定、対応課題等を議題に、参加者の意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事やどのようにしたら良いか？等、伺い、教えていただきながら、協力体制が築ける様、努めている。	包括支援センターからの情報や、行政窓口との情報交換を行い、業務上の方向性を確認して、運営に適正化に資するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前、玄関の施錠をしない体制を行ってきたが、入居者様の認知度にもより、又、建物上、視覚の範囲が多々あることから、市に相談をし、見守りが他者への対応時等により、手薄になり得そうな時等、やむおえずの施錠を行い、安全対策に努める事でのケア対策となった。	身体拘束適正化委員会は定例に開催し、日常の介護事例を議題に、現状を確認・協議して職員間の共有に努めている。利用者の尊厳、個別性への対応での配慮に欠けることのないよう、介護の基本を振り返る機会としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束会議等で拘束になりえそうな事柄や虐待についても話し合い、安心感を得て頂ける様、又、入居者様の暮らしやすい生活状況になる様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の方に来て頂き、成年後見制度や日常生活自立支援の内容について勉強会を行って頂き、入居者様の中でも制度を利用される時の対応に努められる様、勉強会開催をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族様の要望やご本人様の生活状況からの支援の在り方について随時、変化があり、常々ご相談をさせて頂く事と、身体上に合わせた生活の拠点先についても前もって説明を行い、ご理解頂ける様努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者様の担当職員より、日頃のご本人様のご様子について、ご家族様が来所時や、毎月ご本人様の様子を記入したお手紙等から、職員とご家族様との信頼関係を築き、ご要望を伺いながらサービス支援に反映させている。	利用者の職員担当制を基に、心身の状況や活動状況を定例に家族へ報告・連絡するよう努めている。来訪時の情報交換で得た意見等を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に各職員の意見や提案を伺い、出来る限りの要望が業務に反映させられる様、配慮されている。	定例の職員会議を通して、専門職としての相互意見交換を行い、個々の意向を共有してチームの一体感に努めている。必要に応じて個別面談等を行い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記、同様、各職員の日頃の業務への取り組み方や勤務姿勢等から反映をさせられる様、待遇整備を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任務育成を考慮した研修会の開催や勉強会を行い、キャリアアップに繋げられる様、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の系列会議等からの情報交換や業務の取り組み方を把握し、各事業所でより良いサービス支援がなされる様、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃のご本人様のご様子から事前に不便な事への行い方について把握し、お手伝いしながら安心をして日常生活が送れる様、配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様へご本人様の事やご家族様のご要望を伺い、相談しながら良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅に居た時の習慣や馴染みの人や物について伺い、入所後、自宅とは違う違和感をあまり感じず、今迄通りの自己の生活ペースが生かされる様、取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に日常動作的な活動を行い、共に生活をしている者としての共和間を保ち、「尊厳」を意識しながらより良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様が幾つになっても「家族」の関係性が維持出来る様、定期的に電話にて話して頂き、馴染みの声と会話で絆が図って行ける様、配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に一度の同期会の送迎を行い、ご本人様が今迄築いてきた馴染みの方達との関係性が途切れない様、配慮している。	利用者の中には、友人との同期会に参加する方もおり、送迎を支援するなど、家族の支援も得て、関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士を近くの席にししたり、1人で居たとしても会話を持ち掛け他者同士が話せられる様、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今迄築いてきた関係性を大切にしながら、時折話したり、お便りを投函し、なるべく関係性が途切れない様、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様の希望や意向についてご本人が言葉に表せなくても今迄の生活習慣をご家族様に伺い、出来る限りの意向や「今、これがしたい!」という思いが果たせれる様、努めている。	職員は入所以来の個々のアセスメントの情報や日常生活の様子を観察を通して、共有に努めている。利用者個々の意向や「思い」を受け止め、応えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様に今迄の習慣や生活歴、馴染みの行事等を伺い、継続して行ける様、促している。例→「ソロバンを行ったり、絵をかいたり等」		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の各入居者様の様子等を診ながらの現状把握をし、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の様子と行動を診ながら言葉で表現できなくても日頃の様子を把握しながらのケアと介護計画に努めている。	定例の職員会議や観察記録を基に、各職位の生活状況の見解を取りまとめ、介護計画を作成している。また、家族の情報も日々の交流を通じて聞き取り、計画作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様の様子や情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせたケアがなされる様、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近郊のお茶会ボランティアの方々にお越しいただき、交流を図りながら楽しい一時が送れる様、取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の医療機関があれば受診をし、馴染みの関係が継続出来る様、配慮している。	利用者のかかりつけ医がある場合は、家族の協力を得て支援し、管理に努めている。日常は、協力病院の往診等で心身の状態の観察に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、対応についての相談をし、指示をいただきながら適切な対応がなされる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や相談員さん、ご家族様と相談をしながら経過と退院までの流れについて情報交換を行い、スムーズな退院に運べるよう、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現状の状態をご本人様とご家族様と話し合い、事業所で行える事と今後の生活拠点について最寄りの関係者等と情報交換を行い、連携を図りながら取り組んでいる。	利用者の重度化等の対応については、契約時に対応指針を基に同意を得ており、心身の状況の変化に応じて家族、協力病院等との具体的な支援方法を協議して対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを基に、ロールプレイを行いながら即座の対応に活かされる様、取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、即座の対応に努められる様、又、ホームの裏の方に協力体制をお願いし、即座の対応がなされる様、取り組んでいる。	災害訓練は担当機関の指導の下に、課題を設定して年2回の訓練を実施。運営推進会議の議題として意見を伺い・結果を報告している。また、備蓄備品等にも留意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもある「個人の尊重」を意識しながらの言葉かけに努めている。	職員は事業所理念に準じて、利用者個々の日常生活習慣や活動状況を観察して、個々の尊厳や個性を損なうことのないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中からさりげなく要望を伺い、自己で決定がなされる様、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々状況により、職員側の事が優先になる時もあるが常時ではなく常に優先にならぬ様、考慮しながら活動をうながし、充実した時間が過ごせられる様、取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各入居者様の趣向等を伺ったり、趣向が表わされなくても普段の様子を把握しながら各個人にあった身だしなみのお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のスジとり(もやし、シイタケの軸等)を行い、食べやすい盛り付けを行い、美味しくお食事が摂れる様にしている。食後は一緒に食器洗いやお米研ぎを行いながら自宅で行っていた時と近い生活がなされる様、配慮している。	食事は介護支援の基本として、個々の心身の状況を踏まえて提供している。食べやすく、美味しい食事となるように留意するとともに、多くが参加できる機会としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	上記に同じく食べる量と水分量の確保が出来る様、その時々の様子に合わせた提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、就寝時には義歯洗浄を行い、時々、口腔内洗浄のお手伝いをし、口腔内の清潔保持が保たれる様、取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツにパットを使用し、段階を踏みながらその時の行動力状態に合わせた配慮を行っている。	排泄の自立支援を基本として、個々の着用する下着等に留意し、それぞれの排泄状況に応じて、自立した排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、適度な運動等から便秘傾向が改善される様、又、訪問看護師と相談をしながら取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時々状況により、職員側の事が優先になる時もあるが常時ではなく常に優先にならぬ様、配慮しながら取り組んでいる。	入浴支援については、利用者個々の健康や安らぎの機会として、その意向や気分を促すなど、楽しく、ゆっくりできる入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や就寝時、気温調整をしたり、様子を見ながら昼寝を促したりし、気持ち良く休める様、努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタル表に薬の種類や効能を記載し、常時見て把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の楽しみや趣味、出来る事を見極めながら創作活動を促し、気分転換と手先の運動に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度の同期会の送迎を行い、ご本人様が今迄築いてきた馴染みの方達との関係性が途切れない様、配慮している。	利用者個々の心身の状況に応じて、日常は近隣の散歩や季節の風を感じる、軽易な外出を支援している。中には友人が集う同期会に参加する人もあり、個々の馴染み関係継続に留意している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談をしながら、ご本人様に所持金持っていただくことにより、以前と変わらぬ生活がなされる様、配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らご家族様へ電話をされる方や、こちらからご家族様へ電話をし、ご本人様とお話をして頂いたりしながらの配慮をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはその時の季節感の物を飾り、他、観葉植物やオブジェを置いて適度な刺激と現状の把握がなされる様、取り組んでいる。	玄関には街の様子を示す、利用者等作成の地域街区の地図を掲出して、地域への馴染みを感じさせている。居間は広々と集いや食事等の和みある場となっている。採光や温・湿度の管理等の配慮も徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方達を同じテーブル席にしたり、互いの関係性の距離感が保てる様、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物等を配置し、自宅に居た時と違和感を感じずに過ごせれる様、ご家族様と相談しながら取り組んでいる。	居室は家族の協力を得て、利用者個々の馴染みの備品・備具等や家族との思い出の写真で飾られ、安全性に配慮して配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や内部にはガード的なものを使用し、危険対策に配慮し、安心してご自身で出来る事が行える様、配慮している。		